

単収 220kg 以上、2 等級以上を目指して 主要病害虫の適期防除をしましょう！

1 病害虫防除体系

(1) 紫斑病、マメシクイガを重点的に防除しましょう（表）。

(2) ほ場によって、は種期が異なる場合は、ほ場ごとに開花期を確認して適期に病害虫防除を実施しましょう。

<開花期とは>

1 花以上開花した株がほ場全体の4割以上に達した日

表 主要病害虫の防除適期

対象病害虫			紫斑病	マメシクイガ
防除時期		開花期	開花期4週間後頃	8月下旬～9月上旬頃
		7月27日	8月24日頃	8月28日頃
		8月1日	8月29日頃	8月29日頃
防除計画	散布時期	月 日頃	月 日 ～ 月 日	月 日 ～ 月 日
	薬剤名			

自分の防除計画をメモしましょう！

2 防除のポイント

(1) 紫斑病

ア 薬剤防除は開花期4週間後散布が最も防除効果が高いため、開花期を把握し、適期に散布する。

イ 莢に薬剤が付着するように丁寧に散布する。

(2) マメシクイガ

ア 連作及びその隣接ほ場では多発生しやすい。

イ 雑草が繁茂しているほ場では、散布前に除草する。

ウ 粉剤、液剤は莢によく付着するように散布する。



紫斑病



マメシクイガによる食害

(3) ハダニ類、アブラムシ類

ア 発生動向に注意し、発生を確認したら速やかに薬剤散布を行う。

イ 夏季が高温な年には発生量が増加する。

(4) フタスジヒメハムシ

ア 前年に食害が多かったほ場では、成虫発生初期～盛期（高温年の場合は、8月中旬）に薬剤を散布する。



ハダニによる黄化



フタスジヒメハムシの成虫（左）、食害（右）



(5) カメムシ類

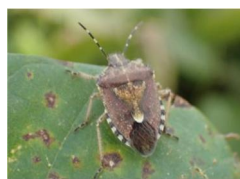
ア 今後も高温が予想されており、降水量は平年並みか少ない見込みのため、カメムシ類が発生する恐れがある。

イ 重点防除時期は莢伸長終期（開花期4週間後頃）～子実肥大中期（開花期7週間後頃）です。多発生時はこの期間に2回防除を行いましょう。

【大豆を加害するカメムシ類の重要種】



アオクサカメムシの成虫（左）、幼虫（右）



ブチヒゲカメムシの成虫



ホソヘリカメムシの成虫

3 雑草対策

- (1) 株間に雑草が多く繁茂している場合は、発生した雑草に効果のある除草剤を散布しましょう。
- (2) 収穫時に雑草が残ったままだと、汚粒の発生原因となり、品質低下を招きます。中耕・培土のみで雑草を抑えられない場合は、雑草種に応じて適期を逃さずに茎葉処理除草剤を使用しましょう。
- (3) 帰化アサガオ類を見かけたらすぐ抜きましょう（詳細は大豆情報 No. 1 をご覧ください）。

【汚損粒の原因となりやすい大型雑草】



イヌタデ



アカザ



アメリカセンダングサ

必ず最新の登録内容を確認してから農薬を使用してください

【問合せ先】十日町農業普及指導センター作物担当
電話 025-757-5516